



善教寺
ZENKYO-JI

寺報

2022年(令和4年)

No. 322

9月号

Zenkyo-ji monthly
Communications Paper
En [えん]

縁



高名なお坊さん(その9)

栄西禪師 禅僧(臨濟宗)

日本に禅宗(臨済宗)を広め、京都最古の禅寺「建仁寺」を開基した。わが国の茶の歴史に新紀元を画すのは、平安時代末期から鎌倉時代にかけて、宋より禅宗を学んだ僧侶達によって伝えられた茶文化で、建久3年(1191年)、二度目の宋留学を終えた栄西禪師は、臨済禪とともに「茶の種」と「喫茶法」を持ち帰る。



茶祖「栄西禪師」像

この「茶の種」による茶栽培は、九州の肥前・筑前に始まり、次第に東進し全国的に展開され、京都では「明惠上人」を経て、宇治の荘園(近衛家)に伝えられ「宇治茶」の起源となった。

鎌倉幕府の記録「吾妻鏡」の一節に、三代将軍実朝のひどい二日酔が、栄西の勧めた茶の一服で、たちまち気分爽快となった、と云う記述があり、またこの時、栄西が実朝に献上した著書「茶の徳を讃むる所書」は、今日伝存する『喫茶養生記』であると云われ、わが国、最初の「茶書」となっている。

この頃から、「喫茶趣味」は武士階級に急速に広まり、「茶道」が開花する室町時代、さらに、安土桃山時代を経て江戸時代に入り、一般庶民にも浸透し、現代の『日常茶飯事』となった。



明庵栄西坐像



勤行聖典バッグ



佛教婦人会用の式章



浅黄色辛夷唐草模様



恵信尼さまのお墓

合わせて持たれてはいかがでしょうか。
辛夷(コブシ)の花は、親鸞聖人の連れ合いである「恵心尼さま」にゆかりがある花です。恵心尼さまのお墓である「五重に候ふ塔」のそばに樹齢六〇〇年のコブシがあつたことから、「恵心尼さまのゆかりの花」といえばコブシの花となりました。

最近は、コロナ禍の影響で、大声を出すのはマナー違反だからか分かりませんが、お経の声が全く聞こえず、家族葬が増えたせいか門徒式章をされている方はお見掛けしなくなりました。
とはいっても、本堂での定例法要では、参拝者の皆さん、門徒式章をされています。そして有り難いことに、先日の盂蘭盆会法要にて、仏教婦人会用の式章が欲しいと要望がありました。この式章、とても素敵だ大会」が開催された際、カナダの湖の色をイメージして作られました。縹色地に浅黄色辛夷唐草模様、白浮織下り藤紋入り。この式章となるデザインです。平成二年に開催された「第九回世界仏教婦人会カナダ大会」が開催された際、カナダの湖の色をイメージして作られました。縹色地に浅黄色辛夷唐草模様、白浮織下り藤紋入り。この式章と惠心尼さまゆかりの辛夷(コブシ)の花にちなんだ勤行聖典バッグを、

住職レター

私が住職になつて、葬儀・通夜の時に、驚いたことが二つあります。一つは、お参りされた方々が、大きな声で一緒にお経を勤め上げられていたこと。二つ目は、ご参列の皆さん、門徒式章を首から下げられていたこと。約二十八年前のことです。

しかし、お経を勤める声は、だんだんと聞こえなくなり、門徒式章をされている方も少なくなりました。